



ラウンドテーブル『防災におけるメディアの役割』（バングラデシュ）

Bangladesh and Japan Media Dialogue on DRR (Bangladesh)

Newsletter

【ソフトバンク株式会社のアプリ「かざして募金」でこのSEEDSのロゴをかざすと簡単に寄付が頂けます。】

Table of Contents Vol.62 (Jan., Feb. 2018)

- バングラデシュ：都市部におけるコミュニティ防災力向上事業
- ミャンマー：学校における津波の防災啓発と避難訓練事業
- フィリピン：セブ州における学校の防災管理推進支援事業
- 日本：(1) 丹波市復興まちづくり協働事業
(2) 丹波市創生シティプロモーションパートナーシップ事業
(3) JICA トルコ国別研修：防災教育
(4) 講師派遣
- 本部からのお知らせ

- Bangladesh: Project on Capacity Building for Community-Based DRR in Urban Areas
- Myanmar: Strengthening School Preparedness for Tsunamis in Asia and the Pacific
- Philippines: Support Project on Promotion of School Disaster Risk Reduction and Management in Cebu Province
- Japan: (1) Joint Project with Tamba City for Community Development
(2) Tamba City Revitalizing City Promotion Partnership Project
(3) JICA Training: School-based DRR Education in Turkey
(4) Dispatch of Lecturers
- Announcements from SEEDS Asia



特定非営利活動法人 SEEDS Asia

〒658-0072

3-11-30-302 Okamoto,

Higashi Nada ku, Kobe, Japan

神戸市東灘区岡本3-11-30-302

Tel: 078-766-9412

Fax: 078-766-9413

Email: rep@seedsasia.org

Web: www.seedsasia.org

Facebook: <http://www.facebook.com/pages/SEEDS-Asia/206338119398923>



バングラデシュ

【JICA 草の根技術協力事業：バングラデシュ都市部におけるコミュニティ防災力向上事業】

バングラデシュ初の防災写真展開催！

2月9日から11日の3日間、ダッカの世界文学センターにて、バングラデシュで初となる防災写真展を開催しました。市民の防災意識向上を目的として昨年11月に募集を始めた防災写真コンテストには250枚以上の写真が寄せられ、その中から審査員によって選ばれた50枚が展示されました。応募者の多くがアマチュアフォトグラファーである一般市民で、各々が日々の生活の中に見る災害リスクや脆弱さを捉えた写真が寄せられました。市民の目から見たダッカ市の写真は、本事業のカウンターパートである北ダッカ市にとっても非常に興味深いものでした。写真展には、神戸新聞社よりお借りした写真28枚もあわせて展示し、阪神淡路大震災の経験と復興、災害と共に生きる人々の様子を伝えました。3日間の写真展には、北ダッカ市長や職員、大学関係者、写真家、学生、住民らのべ約500人が来場しました。来展者からは、「都市の問題を考えるのに、大変新しい、良い取組みだと思った」、「様々な課題はあるが、ダッカは私の愛する街」、「よく見るダッカの光景だが、リスクとして、またはそれらをどう解決すべきかを考えたことはなかった。自分の街を考える良い機会になった」、「バングラデシュからの写真はネガティブなものが多かったが、日本からの写真のように希望を写したのもあったら良かった」等のコメントがありました。写真展には防災モデルコミュニティのメンバーもかけつけ、併設した災害情報スペースにて災害に強いコミュニティを作るための自分たちの活動について紹介し、写真展を盛り上げてくれました。最優秀賞に選ばれた写真10点は、4月11日よりJICA 関西国際センターにて展示する予定です。皆様のお越しをお待ちしております！



防災写真展の様子

ラウンドテーブル『防災におけるメディアの役割』

2月11日、神戸新聞社報道部次長の長沼様をお招きし、現地メディア関係者と防災におけるメディアの役割を話し合うラウンドテーブルを開催しました。長沼様からは、記者として、また、新聞社としての震災の経験を共有いただくとともに、震災の経験が忘れられないよう伝え続けることの大切さ、一人でも多くの命を救うために新聞社として社会に果たすべき役割、役に立つ情報を提供するための記事構成上の工夫等についてお話いただきました。同じジャーナリストとしての長沼様のお話は参加者にとって大変印象深く、多くの質問があげられました。また、長沼様には、神戸からお持ちいただいた写真の紹介と解説を写真展参加者向けに行っていたいただきました。バングラデシュの防災、減災に少しでも役に立てればと、ダッカまで来てくださった長沼様に心より感謝申し上げます。



ラウンドテーブル



ミャンマー

【学校における津波の防災啓発と避難訓練事業】

ミャンマーでの新規プロジェクトスタート！

2,000キロに及ぶ海岸線と広大なデルタ地帯を持つミャンマーは、津波被害の想定人口は67万人(世界第7位)とされています(Prevention web, 2013資料)。SEEDS Asiaは国連開発計画(UNDP)が実施している「学校における津波の防災啓発と避難訓練事業」のミャンマーに於けるプログラムのデザイン、実施、評価を担当し、災害リスク情報の整備・分析と避難訓練等の津波への啓発活動を2017年12月から開始しました。同プログラムは東日本大震災の教訓を伝えるべく日本政府が支援をしており、アジア太平洋地域の18か国で実施されています。

津波防災ワークショップ・避難訓練の実施

1月27日、28日、ヤンゴン地域のクンジャゴン第一高等学校とラッコンコン高等学校の2校で、津波防災ワークショップ及び避難訓練を行いました。2校はヤンゴン地域の中で津波リスクが高いものの、これまで津波の避難訓練が実施されたことはありませんでした。そのため、特に避難訓練への関心は非常に高く、合わせて生徒350名、教員16名が参加しました。さらに、政府やメディアからも注目を集め、社会福祉救済復興省(2月より組織名が防災管理局に変更)、教育省、保健省、ミャンマー工学会、ミャンマー地震委員会、ミャンマー赤十字、大手メディアなどもオブザーバーとして出席しました。ワークショップでは、地震や津波が発生する仕組み



ミャンマー工学会アドバイザーのもと、津波避難行動について意見を交わす生徒たち

や、ヤンゴン地域の災害リスクについて説明をしました。さらに、東日本大震災の教訓についてプレゼンテーションを行い、災害時には、行政機関も被災する可能性があるため、学校側も自分たちで積極的に避難行動を行わなければいけないことを強調し、子どもたち同士で話し合う機会を設けました。

避難訓練の様子は下記のリンクからご覧ください。

<https://www.facebook.com/206338119398923/videos/vb.206338119398923/1850495808316471/?type=2&theater>

避難訓練は、マグニチュード8.0の地震、津波到達まで30分というシナリオを想定し、教員らは、いかに生徒を落ち着かせてマネージメントするかを実践したうえ、生徒は落ち着いて、自分の命を守るための行動を学びました。さらに、日本の一部で導入されている、上級生が下級生の面倒を見る仕組みも導入・実践しました。これら2校でのワークショップと避難訓練の経験を踏まえて、エーヤワディー地域の3校で更なるプログラムを実施します。

ポートを評価いただきました。さらに、学校の回復力を高めるための能力向上について協力体制を構築できました。



ダアンバンタヤン町長との了解覚書調印

THE GLOBAL NEW LIGHT OF MYANMAR



津波避難訓練の様子は、大手新聞の一面に掲載

ラジオ番組でのパネルディスカッション

1月10日に、教育省セブ市地区と共に、フィリピン情報局にて、“Kapihan sa PIA” というラジオ番組のパネルディスカッションに参加し、NGOとしての紹介と事業の説明を行いました。フィリピン情報局は政府のメディアで、大統領府のPRや、行政の事業について情報を発信しています。番組に参加した記者からは収録後も質問が続き、防災の備えというユニークな事業について広めたい、4月の教員用研修も参加したいとの発言もありました。ケーブルテレビ Sky 53 でも放送されました。



ラジオ番組でのパネルディスカッション

フィリピン (セブ)

【JICA 草の根技術協力事業：セブ州における学校の防災管理推進支援事業】

ダアンバンタヤン町長との了解覚書調印、トレド市副市長とのミーティング

2月14日、ダアンバンタヤン町舎にて、ヴィセント ルート町長と会議を行い、学校の防災管理事業協力の了解覚書に調印しました。ダアンバンタヤン町では、若者が災害時に対応できるよう研修を行うプログラムを既に行っていますが、学校向けに情報発信をしたり、防災への備えに役立っているとの感謝の言葉がありました。2013年の台風ハイエンで甚大な被害を受けたダアンバンタヤン町は、災害時のプロトコルを統一することでスムーズな対応や回復力のある町を目指しています。

また1月8日にはトレド市長代理のアントニオ ヤファ氏を訪問し、団体や事業内容の紹介に加え、昨年7月に同市内3校で行った学校回復力調査結果などの説明をしました。トレド市では1月に複数の学校で洪水被害が起こっていることから、フィリピンの災害への脆弱性への理解があり、サ

学校安全点検ミーティング

1月31日に、ダナオ市で学校安全点検ミーティングを行いました。建築局、防災管理局、コミュニティ議や学校防災管理チームとなる教員12名が参加しました。ミーティングでは防災に関わる計画、事業、活動や条例についての発表がありました。2月1日にはボゴ市でも同様のミーティングを行いました。両市の建築局と教育省エンジニアは、公立校の学校安全点検について話し、建物の建設に伴う条件や予防策などの質疑応答がありました。

2月14日に実施したダアンバンタヤン町での3地区目の安全点検マニュアル会議は、コミュニティ主催で行い、7人のコミュニティ議全員が参加しました。コミュニティによる、防災管理システム、条例や方針について発表があり、災害についてどのような備えをしているか、学校をどのようにサポートしたいか話がありました。ダアンバンタヤン中央小学校の学校防災管理チームの教員全員も出席し、現在の安全点検について発表しました。町防災管理局長からは町の防災管理の計画、活動や予算について発表がありました。

どの学校も、4月の教員研修とマニュアル作りを楽しみにしているようです。



安全点検ミーティングの様子

運営指針作成ワークショップ

2月12日、13日の2日間、学校防災管理指導チーム12名とともに、学校防災管理運営指針の話し合いや教員研修準備のためワークショップを行いました。運営指針は、学校防災管理チーム編成も含め、4つの領域（予防、備え、対応、復興）をカバーしていますが、その内容を改善するための協議をしました。また、4月に行う予定の教員研修プログラムについては、継続のための骨子作りも含め、講義を分担しました。3月に再度集まり教育省第7地方事務所からの代表による、講義骨子の論評を行います。



運営指針作成ワークショップの様子

教育省第7地方防災教育トレーナー研修

2月6日から9日にかけて、教育省第7地方事務所が4日間の防災教育トレーナー研修をセブ州に近い諸島の9地区に対して行いました。地区ごとに、カリキュラム教育局長、地区防災管理コーディネーター、パイロット校の校長、防災管理コーディネーター、教員の42名が参加しました。以前同研修を受けた参加者が講師となり、21の防災教育活動を楽しんで行いました。教員たちは、今後も職務として研修で得た知識、スキルや姿勢のさらなる向上に努める旨の契約を結びました。



教育省第7地方防災教育トレーナー研修の様子



日本

(1)【丹波市復興まちづくり協働事業】

各防災教育研究指定校による防災教育成果発表

2月13日、丹波市教育委員会が「指導方法工夫改善研修会」を開催し、英語教育やキャリア教育などのテーマに併せて防災教育の発表を行いました。この研修会では、各テーマを通年研究してきた教職員グループがその成果を発表し、防災教育についてはSEEDS Asiaがビデオ教材の概要を説明するとともに、防災教育研究指定校を代表して2校が防災教育の実践について発表共有しました。

防災教育研究指定校の小川小学校は紙の副教材「心つなぐ」を用いた授業について、氷上中学校は独自で企画・実践した防災行事について発表しました。氷上中学校の先生は「地域や市の人にお世話になり、参観日に防災授業や避難訓練などをする行事も2回目を迎えた。最初の第一歩はとても大変だと思うが、動き出せば毎年の持続可能な恒例行事として確立できると思う」と参加教職員へのエールを送りました。



防災教育活動について発表する指定校教員

(2)【丹波市創生シティプロモーションパートナーシップ事業】

復興（防災）スタディツアーパイロットテスト

丹波市創生シティプロモーションパートナーシップ事業の復興（防災）スタディツアーでは、事業化を見据え2つのパイロットテストを実施しまし

た。1月12日から14日と、2月13日から17日、それぞれ慶應義塾大学と兵庫県立大学減災復興政策研究科の学生が丹波市を訪問し、防災に関連したテーマについて学ぶとともに、ツアーへのフィードバックを下さいました。

慶應義塾大学の学部生は3つのテーマに分かれてフィールド訪問をし、最終日には市への提案という形で、学生目線の新しい意見を発表しました。兵庫県立大学の大学院生は森林と関わりを持つ様々な人のお話を聞き、山登りを通じて森林管理の重要性について学びを深め、被災農地でアジサイ栽培をしている実践者と支援企業から話を伺いました。両参加者ともに、丹波市の素晴らしい自然と温かい人々にポジティブな印象を持ったようです。また、正直な意見を頂いたため、今後のスタディツアーの企画に反映していきます。



丹波市内の山で「森の健康診断」活動をする兵庫県立大学学生

(3)【JICA トルコ国別研修：防災教育】

トルコ国民教育省職員と学校教員が日本の防災教育から学ぶ

1月23日から2月9日にかけて、トルコ国民教育省から総勢14名が来日し、JICAトルコ国別研修「防災教育」に参加しました。参加者は国民教育省教員養成局の職員と、学校現場で教鞭をとる教員で構成されました。SEEDS Asiaの調整により、国（文部科学省）、県（宮城県と兵庫県）、市（京都市）、学校（宮城県立多賀城高校と京都市立高倉小学校）を訪問し、防災教育に関する取組みについて理解を深めたほか、兵庫県教育委員会淡路教育事務所による教員研修や「ぼうさい甲子園」など、様々な活動の見聞を広めました。

トルコでは学校教員も国民教育省の職員として教育に従事しており、日本の地方分権化が進んだ教育制度とは異なります。研修員は、日本のように学校教職員が率先して独自の活動を展開する事例を見聞きし、どのように



兵庫県教育委員会淡路教育事務所の防災教育担当者の話を聞くトルコ人研修員

トルコのシステムに取り入れることができるかを考えました。

最終日には専門家のファシリテーションにより、教員研修制度と「防災教育ハンドブック」の作成についての行動計画及び国に持ち帰る提案を協議・発表しました。

(4)【講師派遣】

SEEDS Asiaでは、全国の学校や地方自治体、企業などの民間組織・団体の講演会やイベント等、幅広い方々を対象に、講師を派遣しています。2018年1月〜2月には以下の講師派遣を実施しました。

アクサユネスコ減災教育教員研修会発表会

2月23日、日本ユネスコ協会連盟主催、アクサ生命保険株式会社協力で、減災教育プログラム活動報告会が開催され、SEEDS Asiaはワークショップの講師として協力しました。このプログラムは2014年度から実施されており、毎年全国から選抜された学校教員が9月の教員研修会で気仙沼市を訪問した後、各学校にその学びを持ち帰り減災教育を実践し、2月の発表会でその成果を共有するものです。今年度は22の小学校、中学校、高校から参加者が集まりました。

校種や地域を超えて様々な教員が集まっており、大きく分けて「成果発表」と「東日本大震災の教訓を全国の減災教育につなげる」といったテーマでグループ協議を行いました。協議発表では、「校種を超えてどんな子どもを育てたいか、共有する機会をこれからもつくっていきたい」など、意欲ある発言が聞かれました。プログラム・コーディネーターでありSEEDS Asia理事の及川幸彦氏は、「国際的な枠組みである『持続可能な開発目標』のロゴマークは、色で表した17のゴールが円をなしている。その円の中心は空いているが、私はここに『人づくり』が入ると考えている。子どもを育てるといふ教員の皆さんの仕事は、まさに持続可能な開発目標の達成の中心であり、減災や防災にとっても大変意味のあることだということ念頭に置いて活動して下さい」とまとめました。



グループ協議のまとめをする参加者

SEEDS Asiaでは、講師派遣を行っています。防災に関わる内容から活動国の話等、講義から、ゲームや紙芝居などのアクティビティを取り入れた講座など、幅広い方々を対象に講演を行うことができますので、ご関心のある方はSEEDS Asia事務局 講師派遣係 (rep@seedsasia.org) までお問い合わせ下さい。

本部からのお知らせ

新スタッフ紹介

本部事務所（大津 有輝）

皆さま、はじめまして。2月より本部に入職致しました大津有輝と申します。去年までは青年海外協力隊としてジャマイカの環境課題に取り組んでおりました。学生時代から国際理解ボランティアなどに参加し、国際協力を携わる働きがしたかったので、この度 SEEDS Asia に入職させていただき大変嬉しく思っております。これから主にセブ事業を担当させていただく予定です。NGO での業務は初めてなので、日々勉強、精進し、一日も早く SEEDS Asia に関わる皆さまに貢献できればと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。





Bangladesh

JICA Grassroots Technical Cooperation Project: Project on Capacity Building for Community-Based DRR in Urban Areas of Bangladesh

First DRR Photo Exhibition in Bangladesh!

On 9th to 11th February, SEEDS Asia and Dhaka North City Corporation (DNCC) organized a photography exhibition on DRR, the first in Bangladesh, at the World Literature Center in Dhaka. In a photo competition on DRR "Tell Us Your Story" launched last November, we received over 250 photos from professionals to amateurs, of which 50 distinguished photos were selected for the exhibition. Many of the participants were amateurs whose photos captured risks and vulnerabilities in their daily lives. It was also a unique opportunity for the city authorities to know how the citizens look at their city. The exhibition also showcased 28 pictures of the Great Hanshin Awaji Earthquake from the Kobe Newspaper to share the experience, devastation, reconstruction, and people living with the disaster. As many as five hundred people visited the three-day exhibition. Spectators left comments such as "Innovative and artistic way to think of urban issues", "most of the photos from Bangladesh represents hazards. It would have been even better if we had positive photos like the ones of Japan", "Very common scene in Dhaka but nobody deeply thinks about its risks or how to solve these problems. Thanks for organizing such a beautiful awareness raising exhibition". DRR communities also engaged in this event by introducing their activities to the spectators. The ten best photos will be exhibited in JICA Kansai International Center from 11th April. Please visit the exhibition!



DRR Photo Exhibition Gallery

Bangladesh and Japan Media Dialogue on DRR

On 11th February, the media dialogue on DRR was held to exchange the experience, practice, and views in the role of media in DRR. Mr. Naganuma, Senior Editor of the Kobe Newspaper, and news managers of Bangladesh's leading media organizations participated in the discussion. Mr. Naganuma shared the experience of the Great Hanshin

Awaji Earthquake from the viewpoint of a journalist as well as a news organization. He extended his message to discuss the importance of continuing to report so that the disaster experience is not to be forgotten, the media's responsibility to society to save as many lives as possible, and the content development to provide useful information to people. We thank Mr. Naganuma, who flew all the way from Kobe to Dhaka, aiming to be a help to Bangladesh in its endeavor to make the country disaster resilient.



Media Dialogue on DRR



Myanmar

Strengthening School Preparedness for Tsunamis in Asia and the Pacific

Launching of New Project "Strengthening School Preparedness for Tsunamis in Asia and the Pacific" with UNDP

SEEDS Asia started a project in December 2017 with the UNDP on "Strengthening School Preparedness for Tsunamis in Asia and the Pacific". Myanmar is the seventh most vulnerable country to tsunamis in the world, with the estimated number of affected people reaching 670,000.

Conducting Workshop on Tsunami Awareness and Simulation Exercise

On 27th and 28th January, tsunami evacuation workshops



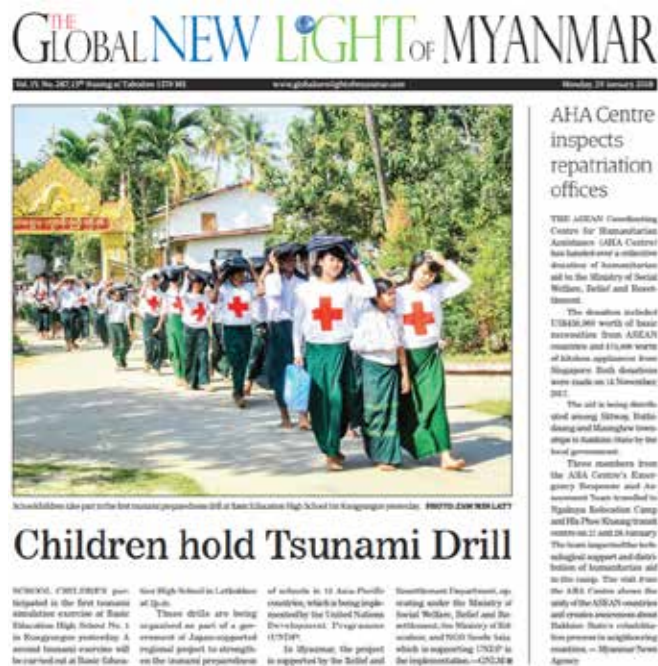
Students Exchanging Opinions about Tsunami Simulation Exercise with Myanmar Engineering Society Adviser

and drills were conducted in two schools of the Yangon Region: Kungyangon Basic Education High School 1 and Letkokkon Basic Education High School. A total of 350 students and sixteen teachers participated in the first ever drills of both institutions. The exercise followed a fictional scenario of an 8.0 magnitude earthquake and a time limit of thirty minutes for the waves to reach the school. The workshops, which were conducted a day before the drill, informed participants the basic mechanisms of earthquakes and tsunamis; reviewed current preparedness level and evacuation location; designed evacuation SOP and route; and practiced emergency management.

The conducted simulation exercise can be viewed at the following website:

<https://www.facebook.com/206338119398923/videos/vb.206338119398923/1850495808316471/?type=2&theater>

The lessons from the workshops and drills will be incorporated into tsunami preparedness programs for three schools in the Ayeyarwaddy Region.



Tsunami Simulation Exercise Reported on Top Page of Major Newspaper

DRRM (Disaster Risk Reduction and Management). The municipality already has an existing program where youths in the whole municipality are trained as Junior Emergency Responders in time of disasters. The mayor was thankful that SEEDS Asia offered considerable assistance to disseminate information and coordination about disaster preparedness especially in schools. Since Daanbantayan was severely hit by typhoon Haiyan, the municipality aims to have only one protocol for a smooth response so that Daanbantayan will be resilient when disasters come.

On 8th January, SEEDS Asia gladly visited the mayor's office in the City Hall of Toledo to have a meeting with the acting mayor of Toledo City, Hon. Antonio Yapha Jr. The agenda included the introduction of SEEDS Asia, its project outline and School Disaster Resilience Assessment Survey results conducted last July in three schools in Toledo City. He is aware that Philippines is prone to natural disasters all year round, including the fact that the flood affected some schools in the city in January. He appreciated support of Non-Profit Organizations such as SEEDS Asia, who are willing to assist the city in its preparation to calamities, and agreed to strengthen the schools' capability to become more resilient on this matter.



Memorandum of Understanding Signing with Mayor of Daanbantayan

Radio Panel Discussion

On 10th January, SEEDS Asia attended the panel discussion with DepEd (Department of Education) Cebu City Division at the PIA (Philippine Information Agency) office in Cebu City in their radio program labeled as "Kapihan sa PIA". This was to introduce SEEDS Asia as a Non-Profit Organization working closely in partnership with DepEd and the previous and current projects of SEEDS Asia on disaster preparedness in the whole region. PIA is the official public arm of the Philippine government and serves as public relations firm for the Office of the President which disseminates information about government projects and programs across the whole country. The discussion was open to all journalists, and some asked questions during the interview portion and others continued interacting after the program was aired. The attended media desired to be involved in spreading the knowledge about the unique initiative on the disaster preparedness, and they expressed

 Philippines (Cebu)

JICA Grassroots Technical Cooperation Project: Support Project on Promotion of School Disaster Risk Reduction and Management in Cebu Province

Memorandum of Understanding Signing with Daanbantayan Mayor, Meeting with Vice Mayor of Toledo City

On 14th February, SEEDS Asia had a meeting with the Mayor of Daanbantayan Municipality, Hon. Vicente Loot, at its Municipality Hall for the signing of the Memorandum of Understanding to support the project on School

their intention to witness the teacher's training this April. This event was also aired on delayed telecast in Sky Cable, channel 53.



Radio Panel Discussion

Safety Inspection Meeting

On 31st January, SEEDS Asia conducted its first coordination meeting for the safety inspection at Beatriz D. Durano Memorial High School, in Danao City. LGU (Local Government Unit) of Danao City, particularly the representatives from the OBO (Office of the Building Official), Local DRRM Office, and the community council members, attended the meeting for the consultation for the Safety Inspection Manual. Other attendees were twelve confirmed teachers who will become the School DRRM Team. Each presented their plans, projects, activities and ordinances related to DRRM that can help School DRRM Team in making a manual. On 1st February, another confirmation meeting was held at City of Bogo Science and Arts Academy in Bogo City. The OBO and DepEd Division Engineers of both cities discussed the safety inspection in public schools and answered the questions raised during the meetings, such as the requirements on building construction and the safety precautions.

On 14th February, the third coordination meeting for the safety inspection at Daanbantayan was conducted at the community hall of Poblacion community. The meeting was



Safety Inspection Meeting

hosted by the community council and all seven council members were present to listen to the presentations and discussion. There was a series of presentations from the community regarding their DRRM related system, ordinances, and policies, showing how prepared the community is to respond to disasters and their willingness to assist schools in this respect. The School DRRM team of Daanbantayan Central Elementary School was all present and discussed the ongoing practices on the safety inspection at their school. The meeting was also attended by Mr. Tilano Dublin, the MDRRMO (Municipal Disaster Risk Reduction and Management Office) chief of the province, who presented the plans, activities and budget for DRRM of the municipality. Overall, the confirmed teachers of all three Pilot Schools were excited about the training of teachers this April and the manual making.

Operations Guideline Workshop

On 12th and 13th February, two-day follow-up workshop for School DRRM Operations Guideline and teachers' training design preparation was conducted with the School Disaster Risk Reduction and Management Instructing Team, twelve in total, in Cebu City. This was to provide an update and ensure that the team will improve the quality of the content to make more effective School DRRM Operations Guideline, covering four thematic areas (Prevention and mitigation; Preparedness; Response and Recovery) of DRRM, including the creation of School DRRM team organizational structure. During this workshop, the teachers' training design was also drafted for the upcoming training this April. Each was assigned a certain topic to discuss, including the session guides for the sustainability of the project. All agreed to conduct another workshop this March for critiquing the session guides by the representative from DepEd Region 7.



Operations Guideline Workshop

Training of Trainers on DRR Education in Department of Education Region 7

On 6th to 9th February in Cebu City, DepEd Region 7 conducted a four day DRRE (DRR Education) integration ToT (Training of Trainers) on DRRE project of SEEDS Asia for nine divisions that are located across the island of Cebu Province. Participants coming from Negros Islands, particularly from Bayawan City Division, Bais City Division, Tanjay City Division, Guihulngan City Division, Dumaguete City Division and Negros Oriental Division, attended the training. Other attendees came from Siquijor Province Division, Bohol Province Division and Tagbilaran City Division. There were five participants per division which are composed of CID (Curriculum and Instruction Division) chief, division DRRM coordinator, school head, School DRRM coordinator and a teacher of a Pilot School. A total of 42 participants participated in the 21 DRRE activities, which made the training enjoyable. The main trainers of the said event were the core team including Dr. Emiliano Elnar, CLMD (Curriculum and Learning Management and Development) chief of DepEd Region 7, CID chiefs from the ten divisions of the whole Cebu Province, Mr. Besin, DRRM coordinator of DepEd Danao City Division, and Mr. Apor, music teacher of Mandaue Comprehensive National High School. In the end, each division signed the Job Embedded Learning Contract which requires the trainees to apply and further develop the knowledge, skills and attitude gained from the training.



Training of Trainers on DRR Education in Department of Education Region

the video material by SEEDS Asia and undertakings by two appointed DRR schools.

Among the appointed DRR schools, Ogawa Elementary School presented their instructions using "Kokoro Tsunagu (Bridging Hearts)" – the printed DRR Education materials, and Hikami Junior High School presented their unique event on DRR Education. The representing teacher from Hikami Junior High School encouraged the attending teachers by saying: "With the help of the community and the City, we came to hold our second event of DRR Education classes and drill. The first step must be very challenging, but, as you start moving forward, it will be possible to establish this as a sustainable event".



Appointed DRR School Teacher Presenting DRR Education Activity

(2) Tamba City Revitalizing City Promotion Partnership Project

Pilot Test Tours

Under the City Promotion Partnership Scheme, the Disaster Recovery (DRR) Study Tour project conducted two pilot testing tours, one on 12th to 14th January and the other on 13th to 15th February, with the students of Keio University and the students of Disaster Resilience and Governance of University of Hyogo, respectively.

The students from Keio University were divided into three groups, made theme-based field visits and presented their suggestions and proposals to the City. Those from University of Hyogo visited and listened to those who



University of Hyogo Students Conducting "Forest Check-up" Activity in Tamba Mountain

 **Japan**

(1) Joint Project with Tamba City for Community Development

Presentation of Educational Research Outputs

On 13th February, Tamba City Board of Education held the presentation sessions on educational research activities. These sessions were an opportunity for various research groups of teachers to share their outputs during the course of the academic year. Along with the sessions of English education and career education, etc., DRR Education group also presented their initiatives, including the explanation of

engage in various activities in the forests, and climbed a mountain to have deeper understanding about the importance of the forest management. They also visited farmers and a supporting company, growing hydrangeas on the disaster-affected land. Both participants were impressed with the beauty of the City's nature, and the warmhearted people of Tamba. They gave the City and SEEDS Asia honest feedback, which will be taken into consideration of the future Study Tours.

(3) JICA Training :School-based DRR Education in Turkey

Officials and Teachers from Turkey's Ministry of National Education Learn from Japan's DRR Education

On 23rd January to 9th February, a total of fourteen participants from Turkey's Ministry of National Education visited Japan under JICA's training of "School-based DRR Education". With the arrangements by SEEDS Asia, the officials and teachers visited the national (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology), prefectural (Miyagi and Hyogo) governments, city (Kyoto City), and school (Tagajo High School and Takakura Elementary School) to have deeper understanding about DRR Education initiatives. Furthermore, the lecture by Awaji Education Office of Hyogo Prefectural Board of Education, the workshop about "Bousai Koshien", and the DRR Education contest provided a wider vision about various DRR activities to the participants.

In Turkey, school teachers are directly employed by the Ministry of National Education, which is a lot different from Japan's decentralized educational system. Hearing about examples of Japanese school teachers independently taking initiatives of DRR, all the participants were giving thoughts about how to incorporate such ideas into the Turkey's context.

On the last day, with the facilitation by an expert, the participants discussed and presented their detailed action plans and proposals to their office about the teacher training system and "DRR Education Handbook".



Participants Listening to DRR Education Lecture by Awaji Education Office, Hyogo Prefectural Board of Education

(4) Dispatch of Lecturers to Conduct DRR Class or Event

SEEDS Asia dispatched staff members as lecturers to conduct DRR training or classes in a wide range of methods and contents on the requests from any organizations such as schools, municipalities, residential communities and private sectors. In January and February 2018, our staff members provided the following lectures.

Post-Training Presentation Sessions of AXA-UNESCO DRR Education Teachers Training

On 23rd February, the presentation sessions of DRR Education Program organized by the National Federation of UNESCO Associations in Japan, in cooperation with AXA Life Insurance Company, was held, and SEEDS Asia took part in some of the lectures. This Program has been implemented since 2014, where the selected teachers from all over Japan gather in Kesenuma in September, bring back the learnings to their respective schools to conduct DRR education, and share their achievements the next February. This year, participating teachers from 22 elementary, junior high, and high schools attended the sessions.

Teachers from different kinds of schools presented their achievements to each other, and discussed the theme "How to connect the lessons learnt from East Japan Earthquake and Tsunami to nationwide DRR education". In the presentations, a teacher said: "I thought it is very important that we have this kind of opportunity to share with different schools what kind of children we would like to raise". The Program Coordinator and SEEDS Asia's board member Dr. Yukihiko Oikawa gave various pieces of advice, one piece of which was: "The logo of Sustainable Development Goals represents seventeen goals with colors, and the center of the circle with those colors is empty. I think human development should be there. Your job as teachers is the center of these global goals, playing a very significant role in DRR education. Hope this will encourage you to continue your implementations".



Participants Summarizing Discussion

In general, SEEDS Asia dispatches staff members to organizations upon request, to give lectures (also with games or picture-card shows) with wide range of targets and topics which relates to our activities. If you are interested in inviting our lecturers on DRR, please kindly contact: SEEDS Asia Headquarters (rep@seedsasia.org).

Announcements from SEEDS Asia

New staff member

Kobe Headquarters Office (Yuki Otsu)

It is great to say hello to everyone. I am Yuki Otsu. I have started to work for SEEDS Asia head office since this February. I had been encouraging people in environmental field in Jamaica as a Japan Overseas Cooperation Volunteer for the last two years. I have been interested in working with developing nations since I was a college student, so I am really excited to join SEEDS Asia this time. I will be mainly in charge of Cebu project. It is my first time to work for NGO but I will try my best to contribute to everyone soon. Thank you.

